

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.5)

シグネチャーパビリオンいのちを育む
いのちめぐる冒険 (河森館)

【設計/監理】鹿島建設・小野寺匠吾建築設計事務所グループ



写真協力：2025年日本国際博覧会協会

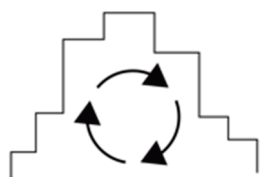
低環境負荷建築システム-4つのコンセプト



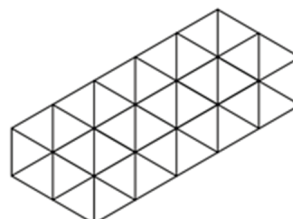
1. 多様な細胞が作る一連の体験



2. 海洋資源の上に成り立つ建築



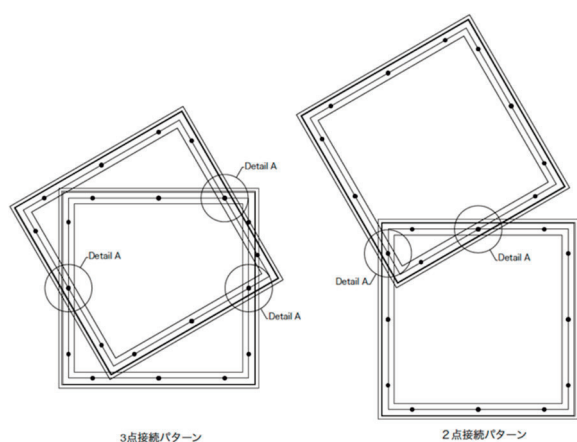
3. パビリオンのリユース・リバーパス



4. 海運のモジュールによる建築

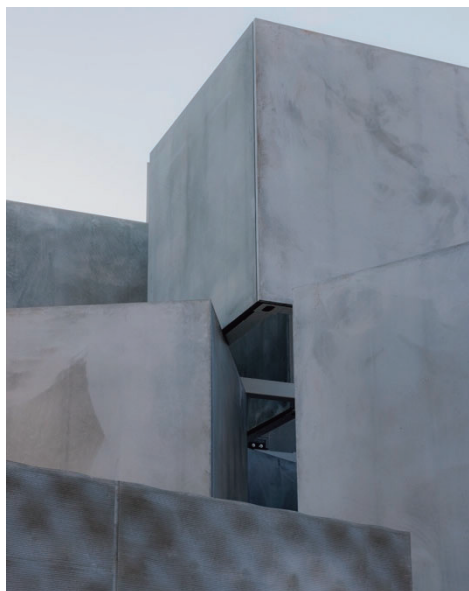
コンセプトダイアグラム

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.5)



セルの積み方ルール

セルは30度傾け2〜3点で接続するという単純なパターンで複雑な全体形状を実現



真水資源の大量消費に対する新しい取組みとして、塩害耐性が強くセメント使用量を削減できる海水練りコンクリートパネルを開発。100%大阪湾の海水での打設を行い真水資源の保全を体現したファサードが実現した。

【パビリオンの概要】

「マクロス」「創聖のアクエリオン」等を手掛ける河森正治がプロデューサーを務める、シグネチャーパビリオン。「いのちを育む」というテーマのもと「今、ここに共に生きる奇跡」をキーワードに、はかなくて、尊くて、力強く、愛おしくて、美しいいのちの輝きと、宇宙海洋・大地に宿るあらゆるいのちのつながりの表現を目指し、人間中心からいのち中心へのパラダイムシフトといのちを守り育てることの大切さを訴求することを目指したパビリオンになっている。展示は内外に渡り展開され、室内展示に「超時空シアター」「ANIMA!」「宇宙の窓」、屋外展示には「無限メタモルフォーゼ」など映像や実物を交えた展示がセル内に点在している。

【設計概要】

「建築を通して環境を回復する」というレガシーを掲げ、建築の基本設計理念と建設過程及び事後利用コンセプトにおいてそのレガシーを展開し、持続可能な万国博覧会パビリオンの新たな可能性を提示することを目標とした。具体的には、既存の海運モジュールを積極的に採用することによって生産・運搬・建設・解体・後利用における高効率化を図り、材料開発のコンセプトの中に積極的な海水利用を組み込むこと等を通して、海洋の資源によって立ち上がる建築をつくる。これらの行為により“海”で広がる低環境負荷建築システムの開発に挑戦し、自然を再生する新たな建築のモデルを示すことで、自然を衰退させる文明から、自然を回復(=Restore)させる文明への転換のビジョンを、物理的に実現することを目指した。